

子どもが、できていることをほめるーでめて当たり前のことをほめるー

子どもと接するときに 本当に大切なこと

『子どもと接するときに本当に大切なこと』という本に出合いました。筑波大附属小の元副校長、

田中博史先生が書かれた本です。

「子どもは、ほめて育てる」という趣旨の本ですが、私が考えつきもしなかつた「ほめる視点」がたくさん書かれています。以下、列記します。

□子どもができるところを発見する。

大人は、子どもが何かできないときには叱るのに、できていることをほめるのは案外、忘れている。大人にとって、当たり前のことも、子どもの側からしたら、頑張っていることがある。そのポイントを大人がしつかり探してほめる。

ほめられると、子どもは自分がやつたことに価値があったのだと思感し、その回数が増えれば次に向かつて頑張ろうという子どものエネルギーになる。

自分がいいことをすれば、それを親(教師)がきちんと見ていてほめてくれる」と、子どもにしつかり実感させることが大切。自分がされてうれしいことを子どもに返していく。

親が教師の良いところを子どもに話す。
↓子どもが教師に話す↓教師が頑張る↓子どもにプラス

↓子どもに教えたいことがまずあって、それに合わせたシーンを見つけて叱る。

※叱る目的は、「教えたいことを伝えるため」

ほめたい相手へのほめ言葉をまずは第三者に伝え、それをその第三者から相手に伝えてもらう。

■「子どもにいい変化を起こす」には、
保護者と教師が協力することが欠かせない。子どもをチームプレーで、ほめる。

■「子どもが自分の本当の姿が見えない。子どもで一緒に考える。ときには親が子どもに頼つてみる。

9月26日(土)9時~

雨天の場合9月27日

運動会

● ほうしと水筒

ぼうしをかぶらずに登校している子どもが、たくさんいます。「ぼうしと水筒持った?」朝、お子さんが家を出るときに声かけをお願いします。

まだまだ厳しい暑さが続くと思いますのでよろしくお願いします。

運動会に向けてチェック!

- ① 赤白ぼうしのゴムひもは伸びきっていませんか?
- ② 運動靴のサイズは合っていますか? 小さすぎたり、大きすぎたりすると、支障がでます。新しく購入する場合は、早めから慣らしておきましょう。

● スマホ・ゲームの4つの約束

- ① 夜、9時にはゲーム機・スマート等を子どもから回収する。
- ② 一日の使用時間は、1時間以内を守らせる。
- ③ 危険なサイトを開かせたり、アプリをとったりさせない。
- ④ 人の悪口は、絶対に書き込まない。

集めています

ベルマーク・廃油
・インクカートリッジ



- ◆目的…学校備品等購入のため
- ◆回収期日…年間を通じて
- ◆回収方法
 - ・廃油…南側校舎の東側
 - ・ベルマーク等…担任に渡す。

※インクカートリッジは、キャノンとエプソン

学校だより 国東小学校 文責 校長 糸永敏明

2020/8/28 NO.18



「相手のよさを伝えること」の大切さ



「小さな事実」に、目を向ける

よいほめ方には、事実が含まれていなければならぬと思ひます。相手が肯定できる事実を伝え、その事実の価値をプラスに最大化して伝えることが大切と考えます。次の文章は、私(糸永)のささやかな体験です。

■熊本市電の運転手さんの価値に、目をつける

3年前の夏、ある研究会出席のために熊本市に出張した時のことです。JR熊本駅を降りて、汗をふきながら市電に乗車しました。車内は少し込み合っていました。乗車してすぐに、運転手さんの車内アナウンスの心地よい声に、はつとしました。

「次は右にカーブします。少し揺れますので、お気をつけ下さい。」声のトーンが聞きやすく、乗客への細やかで優しい語りかけがとても気持ちよかつたので、つり皮を握りしめながら、思わず運転席の方へ目をやりました。

運転手さんは、バックミラーで乗客の様子を常に観察しながら丁寧に、運転をしています。40代前半位の方でしょうか。その表情は常に、にこやかです。「ああ、この人は電車の運転手が好きになつたのだろう。そして、仕事にやりがいを感じているな。」と感じました。

そう思つたとたんに、

「この運転手さんを、なんとかほめたい(認めたい)！」という気持ちがわき起つてきました。「あなたの細やかな配慮に、うれしい気持ちの乗客がいますよ。頑張つてください！」、そういう思いになつたのです。

しかし、下車する時は込み合うだろうし、どのタイミングで、どんな言葉をかけようかと少し悩みました。そもそも、知つている人ならいざ知らず、まったくの他人に対するほめるという経験はほとんどありません。

「他のお客さんも降りるので、できるだけ短く言おう。」などと考へているうちに目的の駅に着いてしまいました。幸い、出口付近にいて、他のお客さんよりも早く降りられたので、料金をすばやく料金箱に入れながら、思い切つて、運転手さんに話しかけました。

運転手さんは、一瞬、驚いたような顔をされましたが、すぐに満面の笑みを浮かべられて、一言、「ありがとうございました！」

下車して、私はとてもいい気持ちになりました。なんだか幸せな気分でした。ささやかな達成感さえ感じ、幸福感にひたりながら全体会場に向かつたのでした。

「ほめるという行為」は、双方を幸せにするのではないでしょか。



人はだれでも「認められたい」という願いを、持っています。一日に一つは必ず良いことを見つけてお子さんをほめてあげてみて下さい。(例えばその子にでもできる小さなことを頼んで、心から「ありがとう！」と言う)。子どもは大きく変わっています。

